徳島新聞　２０２１年（令和３年）６月６日　日曜日（２０）スポーツ掲載
徳島新聞社提供

# 阿波 堂々の８連覇

## 女子は生光学園４年ぶり

男子団体決勝・阿波対鳴門渦潮　先鋒戦で勝利しチームに勢いをつけた阿波の引地（手前）＝鳴門ソイジョイ武道館（立花善晴撮影）

柔道

（鳴門ソイジョイ武道館）

【男子】団体1回戦　徳島北4－1鳴門▽準決勝　阿波5－0徳島北、鳴門渦潮5－0徳島科技

▽決勝

阿波 2－1 鳴門渦潮

○引地 反則勝ち 妹尾

永井 引き分け 福本

【女子】団体1回戦　板野2－1徳島北

○長瀬 僅差 田渕

佐藤 優勢 岡田○

住友 引き分け 大久保

▽決勝

生光学園 3－0 板野

○木村 横四方固め 岡田

○溝渕 横四方固め 福本

○丸山 横四方固め 宮本

### 「僅差」で雪辱果たす　阿波

阿波男子は、昨年11月の全国高校選手権県予選決勝で鳴門渦潮に敗れて以降、雪辱を最大の目標に掲げてきた。そのライバルとの決勝。「内容よりも勝ち切ること。泥くさく戦え」。永井監督の言葉を畳の上でしっかりと表現して競り勝った。

勢いを生んだのが先鋒（せんぽう）の引地。開始早々から小内刈りなど小技を繰り出し、果敢に背負い投げを仕掛けた。攻め手を欠く相手に三つの指導が与えられ反則勝ち。引地は「先に攻め込むことだけを意識した」と納得の表情を見せた。

次鋒戦で引き分けた後、中堅戦に敗れて1－1に。しかし、副将戦に臨んだ長瀬は冷静だった。「襟を取ろうとしたが、相手が袖をつかんできたので逆に袖をつかみ返した」と状況判断良く袖釣り込み腰を掛け続け、「僅差」で勝負をものにした。続く大将住友が粘って引き分けに持ち込み、堂々の８連覇を決めた。

新型コロナウイルスの影響で県外遠征に行けず、短時間の練習が続く中でも集中して鍛えてきた。永井監督の長男で次鋒を務めた永井主将は、2年ぶりの全国舞台に向け「大会が中止となって涙をのんだ昨年の3年生の分も頑張り、一つでも多く勝ちたい」と力強く宣言した。

（木村恭明）

### 3選手 一本勝ち

○…生光学園女子は毎年、総体前に全選手でリーグ戦を行い、勝率の上位3人が団体戦メンバーに入る。学年や過去の実績は関係ない。14人の争いを勝ち抜いた3人は精鋭らしく、いずれも横四方固めで一本勝ち。先鋒（せんぽう）を務めた1年の木村は「出られない先輩の分もという思いで戦った」と喜んだ。

全国総体を懸けた2年ぶりの大一番に、3年の大将丸山は「重圧で硬くなったが、得意技の三角返しを仕掛けて流れをつかめた」と胸をなで下ろす。中堅の溝渕主将＝写真＝は「勝てたけど、3人とも力を出し切れていない。四国選手権での優勝を新たな目標に鍛え直す」と次を見据えた。